

## 冬の硫黄岳 (2,760m) 山行報告

【山行日】 2015年1月10日～12日

【集合場所】 岩舟支所 1/10 午前6時

【費用】 マイカー1台:参加費 32,000円

【メンバー】 CL:仙石、小川 計2名

【コースタイム】

1月10日(土) 岩舟支所 6:00—美濃戸口

10:10/10:40…美濃戸山荘 11:45/昼食/12:10…

堰堤広場 13:10/13:15…赤岳鉱泉 14:40

1月11日(日)

赤岳鉱泉 7:40…赤岩の頭 10:05/10:10…

硫黄岳 10:45/10:50…赤岩の頭 11:10/11:20…

ジョウゴ沢出合 12:15…小滝 12:30…ジョウゴ沢出

合 12:40…赤岳鉱泉 12:50

1月12日(月)

赤岳鉱泉 7:40…中山乗越し 8:25…中山展望台 8:35/8:45…中山乗越 8:50…行者小屋 9:00/9:10…

美濃戸山荘 11:10/昼食/11:40…美濃戸口 12:40

1月10日(土) 曇りのち晴れ



朝6時に岩舟支所駐車場にて待ち合わせて、時間ちょっと前に出発となる。佐野藤岡ICより佐久南ICまで高速を使った。高速を下りてからは、八ヶ岳の東をぐるっと回り込み清里を經由して、美濃戸口を目指す。清里までは路面に雪は無かったが、八ヶ岳高原ラインに入ってから、部分的に圧雪路となっていた。

八ヶ岳山荘前の駐車スペースは満車であったが、少し離れたところに何とか駐車することができた。身支度を調べ赤岳鉱泉へ向けて出発する。ここから美濃戸山荘までは車道を辿るが、日陰が部分的に凍結しているだけで、アイゼン無しで歩ける。(赤岳鉱泉までアイゼン無しで歩いた) 約1時間で美濃戸山荘に到着となる。小屋は営業していないが、小屋前の雪がかからない休憩スペースで昼食をとる。ここから南沢と北沢に分岐となる。今回の登りは宿泊場所である赤岳鉱泉に近い北沢を進む。堰堤広場までは、車道歩きとなるが、その後は山道を辿る。

今年は積雪量が多く、踏み後を外れると、簡単に膝が雪に埋もれてしまう。大同心の岩峰が近づいてくると、まもなく赤岳鉱泉に到着となる。アイスキャンディーと呼ばれる氷壁登攀の練習場には、複数のパーティーが取り付き、アイスクライミングの練習をしていた。この日の赤岳鉱泉は満室で、下の談話室にも布団が敷かれていた。夕食も三回戦とのことであったが、なんとか最初の組で食べることができた。(今夜の献立は、豚肉のしゃぶしゃぶと焼き魚) トイレも簡易水洗に改修され、気持ちよく使うことができた。もちろん食事前にお酒を酌み交わし懇親を深めたことは言うまでも無い。



## 1月11日(日) 曇り時々雪

今日は、硫黄岳ピストンだけのため、朝食の時間を少しずらして食堂に向かったが、かなりの行列が出来ていて、しばらく待たされた。朝食を済ましてから、身支度を調え小屋に置いていく荷物はまとめて乾燥室へ預けて出発となる。今日の装備は、バラクラバをかぶり、ゴーグルをリュックに詰めて、手にはピッケル、足にはアイゼンを着用する。



小屋の前より硫黄岳方面の標識に従い樹林帯へ踏み入る。大同心沢やジョウゴ沢を横切り、赤岩の頭を目指して斜面に取り付く。最初の樹林帯では、雪も深く、雪の重みで折れた木や曲がった枝を除けて進むため結構疲れる。樹林帯を抜けても、雪の下にあるハイマツにアイゼンがからみ、とても歩きにくいところもあった。樹林帯を抜ける少し前で、サングラスをゴーグルに変えて、これから遭遇するであろう強風に備える。

赤岩の頭からは、吹きさらしの広い山道となる。まわりは真っ白に凍った世界で道を間違えたら、とんでもない事になってしまう。構えていたほどの風では無かったが、10mを楽に超える風が吹き付ける。硫黄岳の山頂は広くて風を遮るものは無く、地面の雪は吹き飛ばされ岩が露出しているところもあるが、まわりは白一色の世界であった。爆裂火口も見えないため、山頂表示板の前で写真を撮り、早々に引き上げる。

帰りも同じトレースを辿り、赤岳鉱泉を目指して下る。途中でジョウゴ沢の滝の様子が見たくなり、ちょっと寄り道をして凍った滝を眺めることにする。赤岳鉱泉に戻り自炊室でお湯を沸かして昼食を食べる。(もちろん硫黄岳下山祝いは行った)その後夕食の時間まで歓談をして過ごし、食事(今夜の献立はステーキ)を食べて早めに布団に入った。



## 1月12日(月) 晴れ

当初の計画では、文三郎尾根より赤岳に登頂する計画であったが、例年に無い大雪であることと、稜線は風が強くなる予報と、二人の体力を勘案した結果、赤岳登山はあきらめて南沢経由で下山することに決定した。

朝食後に身支度を整えて中山乗越を目指して出発する。頭の上ではジェットエンジン並の音を立てて、風が吹き荒れている稜線は、雲の中であり大同心や小同心を見ることはできない。



中山乗越にザックをデポして中山展望台を目指す。阿弥陀岳、赤岳、横岳が良く見渡せる場所であるが、残念なことに全ての山頂は早く流れる雲に隠れ姿をくつきりと見せてくれない。その後、行者小屋から南沢を通り下山した。

美濃戸山荘で昼食を取り、その後はアイゼンを外して美濃戸口まで戻る。帰りに海ノ口温泉に寄って温まり、無事に岩舟支所駐車場まで戻って解散となった。

仙石リーダー大変お世話になりました。思い出深い雪山山行となりました。次回は厳冬の赤岳にアタックしませんか？

小川 記

